

琵琶湖病院・びわこクリニック

聴覚障害外来通信

2006年

50号

ささやき

編集・発行 特定医療法人 明和会 琵琶湖病院

聴覚障害者外来スタッフ

FAX : 077 - 579 - 5487

TEL : 077 - 578 - 2023

E - Mail : mimi@biwako.or.jp

『聞こえない』ってどんなこと？

精神保健福祉士 西川 健一

「聞こえない」ってどんなことなのでしょう？「聞こえる」私には本当のところ、よく分かりません。しかし、生活の中にどのような『音』が溢れているのかを振り返り、その『音』がない生活を想像することで「聞こえない」ことの意味を考えることはできるのかもしれない。

私の生活の中で、なくてはならない『音』として、自分の身の回りの大切な家族・友人の『声』、そして、何かの情報を伝えてくれるテレビなどの『声』が真っ先に頭に浮かんでいきます。伝えて欲しい！と思う情報だけでなく、何気ない周囲の人々の話し声や流れているテレビの声などが聞こえてこない、伝わってこないというのはとても寂しい気がしてしまいます。また、自分に伝わっていない『情報』が存在していることに気付けない、何が分からないのかを周りの人に聞くことさえできない、そんなことも起こるのではないかな・・・と。そう考えてみると「聞こえる」ものが今目の前にある状況の中でみんなが等しくその『情報』を得ることができているのかを少し立ち止まって考えてみると解決できるものなのかもしれない、そんな風に思います。

しかし、『情報』だけでなく、私の周りに存在する『音』には、家の中にあふれる電化製品から聞こえる電子音、鳥やセミなどの鳴き声、風や雨の音、街中の雑踏や音楽・・・が浮かんでいきます。

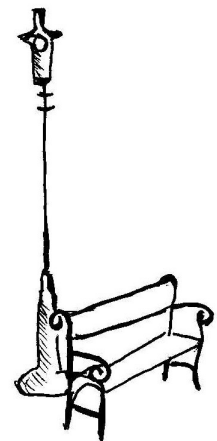
こうやって考えてみると本当に朝起きてから寝るまでの間に、心地良さを、便利さをそして煩わしさをもたらしてくれる、実に様々な『音』に囲まれていることに気が付きます。

こうやって自分のまわりにある『音』を意識してみると「聞こえない」とは「話す」ということ以外にも聞こえる私と違う生活があるのだと改めて感じました。

皆さんも一度自分の周りにある『音』を意識してみてはいかがでしょうか？

最近のトピックス

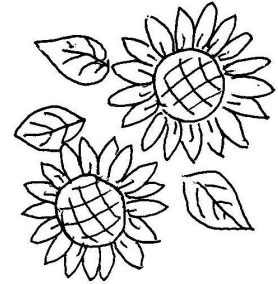
- ☆ 平成18年5月28日 『全国手話問題研究集会—医療従事者のネットワーク10周年記念行事—』が 手話研修センター(京都市)で開催され、医師 藤田が参加しました。
- ☆ 平成18年7月22～23日 『聴覚障害者精神保健研究集会』が東京で開催され、医師 藤田が参加しました。基調講演(3例)レポート報告(4例)がありました。
- ☆ 平成18年8月8日 なかまの里 職員研修会『精神に障害をもつろう重複のなかまへの関わり』に 心理士 古賀が参加しました。



『 聴覚障害者の患者さんと関わって学んだこと 』

P - 3 病棟 寺田由美子

P - 3 病棟では、週に1回患者さんとスタッフとで手話勉強会を行い、時折、聴覚障害を持つ患者が入院して来られます。従来は、口答や筆談で会話出来ることが多いと思っており手話を使用することがあまりない私でした。しかし先日Aさんが入院してきたことで私の手話に対する思いが一変しました。Aさんのコミュニケーションは、殆ど手話で行われるもので、前医では、コミュニケーション不足により病状が悪化したということでした。入院当初より不調の訴えにて頻回のナースコールをされ、自分の勤務時間にどう対処したらよいか途方にくれました。ある日、手話で話しながら外出から家族と共に帰院されたAさんを見てハッとしました。初めて笑顔を見たとき、Aさんの立場に立ってコミュニケーションがとれない時の孤独や喪失感を考えたことがあったのだろうか。手話もまだまだ勉強中ですが、傾聴の難しさをAさんより学んだと思っています。



『 伝えたい思い 』

R-1 病棟 中西 奈緒

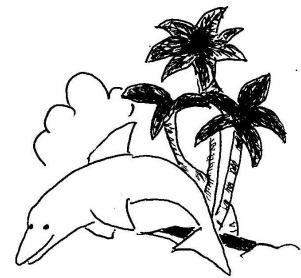
小学生の時に『パントマイム』を演じ、とてもやりがいを感じたことがあります。

『言語』を始め、人間には様々な表現手段があります。しかし、ただ言葉を並べても伝わりきらないことがあると私は思います。私自身、言葉を並べる事が不得手であるのも大きな要因だと思うのですが、思いを伝えるという上で『感情』の表現は重要であると思うからです。

折角『人間』として生まれ、様々な表現方法をもっているのだからこそ『感情・思い』をできるだけ正確に、相手に伝えることができればいいな...と思い、私は身振り・手振りを駆使し『話す』事を心がけています。

琵琶湖病院に就職し、ありがたい事に『手話』という表現方法を学べる環境に恵まれました。手話の師であるR1病棟の師長に「大事なものは正確さではなく伝えたい思いを表す」ということを教わり手話が言語の一つという事をあらためて実感しました。手話で表現する時に私は苦手な英語同様、正確な単語・文法に囚われすぎて脳がガチガチになっていましたが、少し脳を柔らかくし伝えたい思いをもって手話表現をすると自然に手が動く事実を発見しました。それはやはり「言葉を話す」と同じなんですね。

表情と言葉と身振り・手振り+自分の思いをもって人と関わることは全ての伝達方法に共通します。今更ながらパントマイムは身体を使い、全ての人に表現・伝達できるからやりがいを感じる事ができたのではないのでしょうか。まだまだ修行中、しかし「伝えたい」気持ちを大切にしたいからこれからも手話を学んでいきたいと思っています。



～わんぽいんと手話～

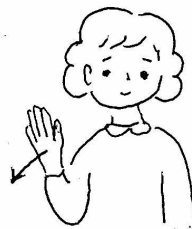
いろいろな決まりがあります



「いろいろ」



「決まり」



「ある」

編集後記

残暑お見舞い、申し上げます。まだまだ、暑い日が続きますが・・・

体調は崩されていませんか？しっかり食べて、十分な睡眠をとり、この暑さともう少し付き合っていきましょうか・・・ (な)